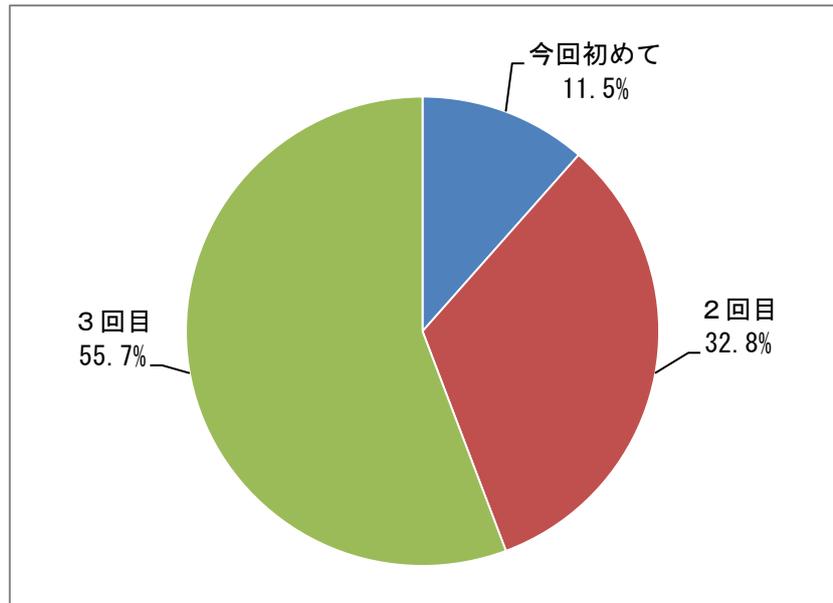


## 第3回 逗子の未来協議会 アンケート結果

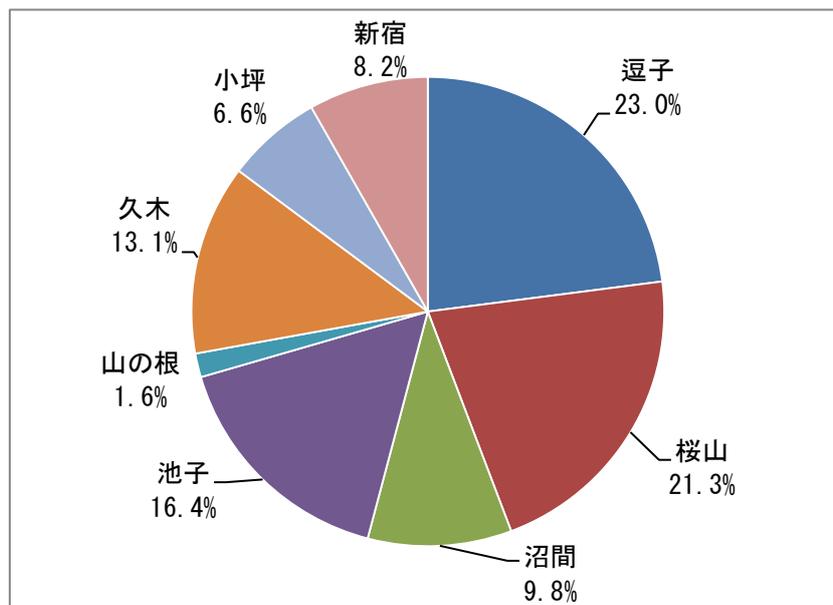
実施日：平成28年9月17日（土）

回収数：61（回収率100%）

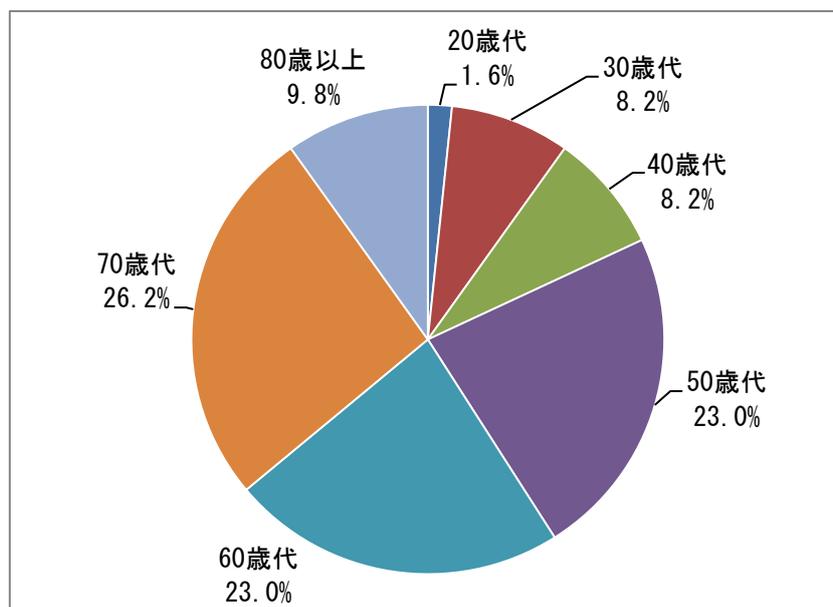
### 1 第3回参加者の参加状況



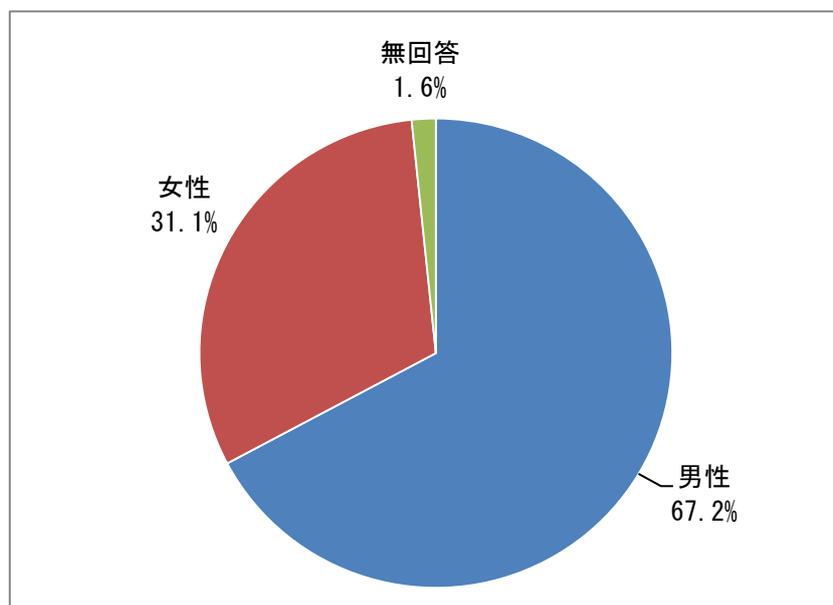
### 2 第3回参加者の居住地



### 3 第3回参加者の年代



### 4 第3回参加者の性別



## 5 「逗子のまちがよくなるために、市民はどうあるべきか」について考えたこと、感じたこと

### <20 歳代>

- ◆ 関心をもつ、アンテナをはる、感度を上げておくことが大事。行動ができるようになればよいかと思うけれど、とはいえ、とにもかくにも意識することが大事だと思う。

### <30 歳代>

- ◆ 本日提示いただいた 3 つのテーマは全て重要。グループワークで選んだテーマは、安全で安心な暮らしであった。お金をかけずに声かけというように住民参加が非常に重要。今できるものは、今すぐにでもやるという意識が大事。若い世代も巻き込んで良い町づくりをしていきたい。
- ◆ このテーマについては、誰に聞いても似たような意見・アイディアをもっている。つまり、全市民に共通する不変のテーマであり、みんな同じベクトルを向いていると言える。しかし、なかなか実現できていないことも事実である。それだけ実行が難しいテーマである。逆に言えば、これが実現できれば「逗子はすごい」となる。今回の WS ではそこをめざしたらどうだろうか。
- ◆ 市民が行政に頼らずにできること。市民の一人一人が主体になることの難しさを感じました。市民の民度の潜在能力は高いが、それが外(コミュニティ)へ発信、発展するアイディアを探りたい。
- ◆ WSに参加したり、よく広報の情報を拝見したり、facebookでも逗子市の情報を得ることに努めてはいるのですが、世代間ギャップを埋めるための行動がなかなかできずにいましたが、今日「市民として」と題して他の方々も同じようなことを考えていることを知られて良かったです。「行政」や「市民」とくくってはいるものの、一人一人は人同士であり、直接お話しして理解し合い皆で仲良くできる市になると良いなあと思いました。言われなくても思いやりをもちあえる人々の市でありたいなあと、理想論ですが感じました。
- ◆ 市民だけで実行できることは限定されており、行政と市民・法人が一体となって取り組む必要があるように感じた。市民の活動が前提となる議論が必要であればその前提を示すべき。

### <40 歳代>

- ◆ 自分の足元だけではなく、せめて町内会レベルの視野をもって暮らしていく。ひとりで生きているのではなく、生かされていることを理解するお互いさまの精神を持つ。
- ◆ 今回のような意見が市政に反映されていれば良いと思います。
- ◆ 人任せにしない市民、実行力のある市民である(になるべき)。自然災害も含め、人任せになってはならない。  
市をそれぞれゾーン分けし(海のゾーン、山のゾーン、森のゾーン、文化のゾ

ーン等)、それぞれの地域に愛着(責任)をもつ。その中で市役所に何をしてほしいのか等、また、住民・市民の交流等、1人ひとつ所属する位を目標に異年齢・異文化交流、積極的になれるようにしたい。

- ◆ 市民がどうあるべきか、我々ができること。当事者意識をもって議論ができたと思います。話し合う時間が短かったと感じました。
- ◆ 市民それぞれが意識をもって良くしていこうという雰囲気作りができれば、きっと住みよい街ができると感じた。コミュニティをどう立ち上げ、どう共感を得られるか、この点がうまくできれば街は活性化していくと思います。

## <50 歳代>

- ◆ 防犯の強化。交通インフラの整備
- ◆ 「豊かな自然環境に囲まれた暮らし」について、行政に任せておくだけでなく市民自らが立ち上がって守る事が必要。
- ◆ 逗子市を好きになる
- ◆ 市と市民が一緒になって行動していくことが大切。どのグループもコミュニティの大切さをうたっていた。
- ◆ 今まで、こうありたい、行政にこうして欲しいと思うことは多々あれど、市民として(第一人称)の行動を考える良い機会になった。今後も市民としてできることを自発的に行動し、逗子のまちが良くなるように意識したい。
- ◆ 自治会の活動も大切だと思います。また、いろいろな場に参加できるよう呼びかけをしたりする方がいると良いと思います。
- ◆ 例規における「市民」の説明について、質疑は不用だったと思います。説明する必要性はあったもののもう少しあっさりでもよかったかなと思います。「豊かな自然環境」については、「緑」のキーワードが多く聞かれた一方、「海」が出てこなかったこと、海のスポーツをする私にとって、とてもショックでした。海岸線の保持・保全の優先順位が低くならないか不安。
- ◆ 時間が短かったので、「市民はどうあるべきか」まで話し合いが深まらず「行政にしてもらいたいこと」に留まってしまった点もあった。グループワークは皆が積極的に発言し、年代や立場が異なっても有意義な機会だと思いました。
- ◆ 意識をもち、行動することが重要であるが、自発的に行うのは難しいので、このワークショップ的な枠組みも必要であると感じた。
- ◆ ほんの少し市民生活が良くなるポイントは、いかに行政サービスに依存せずに市民が全体にとってプラスになる活動を普段からできるかどうかにあると思う。ゴミ拾いなどさりげなくできるようなシステム作りなどから生活者のモラルが変化し、生活しやすくなると思う(アダプトプログラム以上に軽くできるもの)。どうしても高齢な方の視点に偏りやすいかも。未来思考とのバランスが必要だと感じた。
- ◆ 若い人の交流の大切。子どもたちの住みよい町にしていきたいですね。
- ◆ 行政・自治体に頼らず、自分たち=民間・ボランティアでまず考え、行動して

いくべき。自治体はサポート役になってもらいたい。

民間の知恵、行動力を活用しよう。逗子市の集約は逗子市民。逗子市を良くするのは逗子市民。逗子の未来は逗子市民にかかっている。

- ◆ 「住民協」の積極的な活用等具体的な内容についての話し合いとなり良かった。
- ◆ ③人が住みたいと思う町とする、②安全と安心、①コミュニケーション、の順でどれも必要なテーマと思う。人・金・物をどう使うかを決めるプロセスを大切に。住民参加型（自治会・子ども会等との連携）、安全と引き換えにボランティア活動も大切。町の特徴を外にアピールして市を訪れる人にも市民としての義務を理解してもらおう。

## <60 歳代>

- ◆ 世代間の交流を深めることが、防犯・防災につながる。
- ◆ 「広辞苑」では「①市の住民 ②国政に参加する地位にある国民。広く、公共性の形成に自律的・自発的に参加する人々 ③ブルジョアの訳語」などと書かれている。中でも②は重要であるが、今回の議論にはほとんど登場しなかった。「自治」のためには重要な事柄なのでよく検討したい。
- ◆ 良い逗子を維持するためには、それを享受するだけではだめだ。維持するために何ができるか、を考え、何らか全労力の負担をすることが必要である。維持するための活動に参加できるような「働きかけ」「グループを作る」などを行う。
- ◆ 自分が行動することが大切だということに改めて気付かされました。自分が気持よく暮らせればそれで良いという姿勢でこれまで暮らしてきました。今日の話し合いに参加して、若い人たちがそうではない生き方を探していることを知りました。自分さえよければそれで良いという姿勢では変わらないということに改めて気付かされました。
- ◆ 自然を守るには市民の意識改革だけではダメで、自治体として予算の確保・広報活動が重要であると感じた。
- ◆ 市民と行政とのコミュニケーションを良くするため、今以上に SNS を利用促進したら良いと思います。(ex) 子ども・高齢者の見守りなどは、役割を明確にすると役を受けるハードルが高くなるので、登録制等考えればよいと思う。
- ◆ 30 歳代、60～70 歳代とのグループでした。住む町によって考え方・感じ方が少しずつ違って興味深い意見を聞くことができ、自分ももう少し参加体勢を整えたいと思う。
- ◆ 「・・・市民はどうあるべきか」は、どう答えていいかわからなかった。
- ◆ 地域住民と協力し合い、町をきれいにする。
- ◆ 何をしたらいいかということは、case by case で（変化）違ってくるので、そのときそのときで協力できるやわらかい対応のできる仕組み作り。何がおこるかわからないが、どんなときにもどんな困難でも対処できるぞという風土作り。
- ◆ 若い人や女性も積極的に話をしていた。このようなワークショップだから発言しているのかもしれないが、普段の生活でもさまざまな世代の人が実行できれ

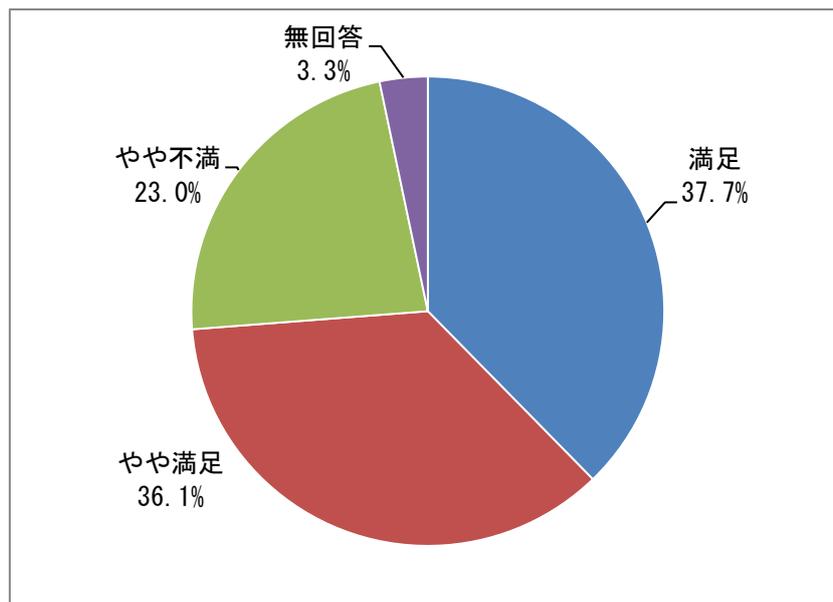


- ◆ 世代間の交流ができるように、また、余っている施設を利用していくとよいと思う。
- ◆ 空き家を利用し、高齢者(元気な)の力を借りて子育て支援や高齢者の憩いの場になると逗子のまちがよくなるのでは・・・。話し合いの時間が長いと良い。
- ◆ 地域のコミュニケーションの促進。地域も自治会ですら大きすぎる。向こう 3 軒両隣式に細分化する。
- ◆ 逗子市民として日々の暮らしの中で心に留めること、自分にできることなどを考えながら暮らすことが大事。
- ◆ 30%以上の高齢化の中、健康年齢を伸ばし維持できるようさまざまなイベント(チャレンジデー等)や日常活動を通し、誰でも運動に簡単に参加できる機会が得られるように市、市民協力していきたい。  
災害等については、情報をお互いに共有し、災害時協力して行動できるようにしていく必要があると考える。
- ◆ 住民自治協議会を上手に育てていくことが重要。このためには、大切なことは高齢者と若い人(特に母親世代)や子どもとの交流をどう進めるかが重要課題。子育て世代を“人口維持”のためにも誘導する政策が必要。⇒「魅力あるまちづくり」がテーマ
- ◆ 例えば①プライオリティシートには・・・気持ち。②また、乗り物(バス・電車)では積極的に席を譲る気持ち ①②のような、気持ちを市民一人一人がもつことによってあらゆる生活上のコミュニティが生まれ、気持ちの良いまちづくり(コミュニティ)のきっかけになると考える。
- ◆ 私のグループに参加した若い人たちが、皆自主的な参加者であることを知り、大変感激しました。これからは、このような若者の意見を取り入れる仕組み等が必要と感じました。

## <80 歳代>

- ◆ 逗子市の未来協議会として発足してきた段階で、そろそろ逗子市の現状の求める情報として証明して欲しい。まちづくり市民ネットワーク会議の第1回に配布された資料の一部等。(人口、財政、職員～)
- ◆ お祭りが人々の吸引力になるとの意見が聞かれ、嬉しく思った。
- ◆ 「コミュニティなどの人の交流が盛んな暮らし」が町を良くなるための基本的なことだと考えます。
- ◆ グループ5名でまとめた。参加意識が大切。健康であること。市は場所など提供の点で協力してくれることが大切である。
- ◆ 依然、市行政に対する要求ベースの話が多すぎる。特にテーマ③を選んだグループは金のかかる話ばかり。今後、実効ある会議にするためには、ボランティア的発想・行動を誘導する動きが必要になる。(上手に誘導するためのインセンティブのあり方を行政もしっかり考えてほしい)
- ◆ 市に関して、市民の認識の差が大きい事を感じた。時間はかかるが、共通認識の形成が肝要と痛感した。

## 6 第3回の感想



### 【「1. 満足」「2. やや満足」を選択した理由】

#### <30 歳代>

- ◆ 有意義な話し合いができた。他の住民が何を思っているのが分かるので非常に有用。
- ◆ 今回は（も）非常にすばらしい進行・内容でした。アンケートの内容が反映され、臨機応変に対応されていたと感じました。
- ◆ もう少し深い議論が早く始められる工夫ができるといいなと思いました。
- ◆ 意見交換が刺激になりました。

#### <40 歳代>

- ◆ グループが良かったです。話しやすかったと思います。
- ◆ 世代間の意見交換ができて良い場だと思います。
- ◆ いろいろな意見が聞けた。
- ◆ 参加者が協力していて、ワークショップができたこと。

#### <50 歳代>

- ◆ 共通項のある人々と話をするのは楽しい。今回は少し短かった。
- ◆ ワークショップメンバー全員が、万遍なく発言でき、活発な議論ができた。
- ◆ 時間の確保をお願いします。
- ◆ 2時間があっという間でした。いろいろな方の意見が聞けて楽しかった。
- ◆ 「市民がどうあるべきか」と今回のグループテーマがつながりにくかった。
- ◆ まだまだ充実していくと思われるので、今ひとつ方向性が見えない。
- ◆ はじめに時間的に長いかなと思ったが、話を聞いていて時間のたつのが早く考

えることが多かった。

- ◆ グループでの話し合いにあまり実りがなかった。高齢者の雑談的になっていたし、一人の高齢男性の方がしゃべっていて、発表内容の全てを決めていた。他の人は聞いているだけだったので、職員の方がもう少し話し合いに気を配り、リードしたり仕切ってほしかった。

### <60 歳代>

- ◆ いろいろな考え方に接することができるから。
- ◆ 自由に意見交換ができた。
- ◆ 勉強になりました。
- ◆ メンバーがいい！
- ◆ 参加者一人一人が熱心に話し合っている。14グループが逗子のことについて真剣に考えていることが分かり、逗子を改めて好きになった。
- ◆ いろいろな話が聞けた。
- ◆ 良かった。

### <70 歳代>

- ◆ 逗子を良い町へ導く方法を皆で考える機会は、大変重要と思います。
- ◆ 皆さんとほぼ意見が一致した。
- ◆ 時間配分に問題あり。
- ◆ 良い議論ができたと思います。
- ◆ 意見の交換が豊かさを生むには、やはり時間が少し足りない。
- ◆ 地域のそれぞれの希望を語り合ってよかった。
- ◆ 「市民」ということについて勉強できたこと
- ◆ グループ全員がそれぞれの意見を出し合い、短い時間であったが楽しく話し合えた。
- ◆ これからの逗子の住民となる、高校生・大学生年齢の参加者を交える会に少しずつ方法を考えられないか（参加しやすいイベントなどを入れるなど）

### <80 歳代>

- ◆ 市民と住民の区別が分からない。住民登録をすれば市民となるのか。市民、住民、地域住民の差は？
- ◆ テーマが同じでも、参加者の違いにより、めざす重要度がいろいろあることが理解できた。
- ◆ 皆さんの意見が幅広く聞けたこと。
- ◆ 事務局の進め方の方向付けが良く、それに従って5名＋市職員でよくまとめることができた。
- ◆ 「市民」とは何かということに話し合いができなかったことは残念。

### 【「3. やや不満」とした理由】

#### <30 歳代>

- ◆ 議論の目的が明確でなく、単なるガス抜きではないか？様々な意見が聞けて良かった。合意形成の難しさが分かった。趣旨がつかみにくかった。

#### <50 歳代>

- ◆ 話し合いの中で方向性が違う意見が出てきたので、意見が言えなくなって不完全燃焼だった。次回の話し合うテーマについて考える時間が必要。
- ◆ 前半が長い。グループでの時間が短すぎる。1～3回の参加で体の不自由な方の参加がないように見られた。手話通訳の方もいないし、そのような方の意見も大切なのでは。
- ◆ 時間が短かったため、なかなか話がまとまらない。
- ◆ なかなか自分の意見が言えない状況になりつつある。
- ◆ 時間が短く議論が浅い。住民と市民の話が出たが、どちらを対象とするのかももう少し明確にする必要があるだろう。第2回合意形成とは、の答えは、結局何だったのか良く分からなかった。

#### <60 歳代>

- ◆ 前半が長すぎて、後半の話し合いの時間が少なすぎた。
- ◆ Q5 で書いた「市民」の検討がほとんどできなかった(今後に期待する)。
- ◆ 目的にどのようにつながるのかよく分からない。
- ◆ Q5 と同じ。「・・・市民はどうあるべきか」は、どう答えていいかわからなかった。
- ◆ 時間不足。

#### <70 歳代>

- ◆ 時間に追い立てられて、議論する時間が少ない。もう少し余裕ある議論時間がほしかった。
- ◆ 討議の時間が短すぎる。

#### <80 歳代>

- ◆ 25分くらいで議論を深めることは無理。